

















































◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<1月> 業界の景況(前月比DI値)

消費増税のほか、暖冬などが関連して影響したため、前月より景況は厳しい状況である。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和元年10月	令和元年11月	令和元年12月	令和2年1月
製造業	食料品製造業	 △ 17	 0	 0	 △ 33
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 △ 100	 0	 0	 △ 100
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 0	 0	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
非製造業	卸売業	 20	 △ 40	 △ 20	 △ 50
	小売業	 △ 67	 △ 67	 △ 50	 △ 50
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 67
	サービス業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	建設業	 0	 △ 17	 0	 △ 17
	運輸業	 0	 0	 0	 0
	その他	 0	 0	 0	 0

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	<p>1月も相変わらず低迷しており、台風19号の被害、消費税増税の影響がここに来て表れているのではないかと思われる。更に、新型コロナウイルスによる心理的な影響もあり、非常に厳しい環境下となっている。このような時こそ、古来より食べ続けられ、酵母菌で造られ醗酵された味噌が良いと言われている。みそ汁あるいは味噌入り料理で胃腸を整え予防して頂ければと願っている。</p>
水産練製品業界	<p>コストアップが続いているが、思うように値上げ出来ず、各社厳しい状況下にある。</p> <p>昨年は2社廃業、1社倒産した。</p>
酒造業界	<p>全国的な清酒の需要は国内が減少しているものの輸出は増加してきた。しかし、韓国への輸出数量の激減の影響もあり輸出総量も前年を下回った。数年前まで宮城県産酒の出荷動向は全国的な傾向とは異なっていたが、今は同様の傾向を示すようになった。比較的小規模な蔵元で出荷を伸ばしているところもあるが、組合員の多くは前年実績に届いていない。</p>
製麺業界	<p>各社とも販売量が伸び悩んでおり、昨年比割れが続いている所が多い。</p>
木材業界	<p>県内の12月の住宅着工数は1,275戸で、前月比21%減少、前年同月比は33%と大幅減少した。2019年合計は17,591戸となり、前年比10%の減少で、全国の4%減少を大きく上回った。</p> <p>原木は、東北全域の値上がりを受けて、小・中丸太は値上がり傾向。製品価格は相変わらず横ばいで、当用買いが多く荷動きが落ち着いている。合板の出荷は順調ながら、合板原木の今後の供給に懸念が出ている。今年も住宅着工数の減少が見込まれるので、非住宅建築やリフォーム・内装等への木材利用をさらに進める必要がある。</p>
生コンクリート業界	<p>1月の出荷量は、前月より20.9%減少した。稼働日数の関係もあり全ての地域で減少した。前年同月比では、14.2%増加で、仙台、石巻、大崎、気仙沼が増加し、県南、県北は減少が続いている。</p> <p>昨年4月からの年度累計では、9.7%増加で、仙台は民需、石巻、気仙沼は震災復興関連、大崎は特需が貢献している。</p>
コンクリート製品業界	<p>組合員の12月の出荷量は、前月比106%と増加した。前年同月比は84%と昨年の実績を下回り、4月からの累計でも前年比76%と下回った。</p> <p>在庫は増加傾向にあり、年度末に向けての出荷促進、生産、在庫管理をしなければならない状況である。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れ</p>

	の報告です)
機械金属業界 A	売上高は、前月比・前年同月比ともに停滞・減少傾向にある。
機械金属業界 B	先月同様、大手取引先の設備投資意欲が一段落した為、売上・収益ともに前月より大幅に減少した。
再生資源業界	<p>1月の鉄スクラップ市況は、12月に上昇局面となったが、一転して大幅な下落となった。国内の鉄鋼需要が引き続き不振な事と、中国、アジア圏での鉄鋼需要も冴えない状況であるため、2月も引き続き断続的に小幅な下げの状態が続くものと思われる。</p> <p>古紙はダンボール古紙、雑誌・雑紙古紙の荷余り感も半年以上継続している状態で、メーカーへの納入制限と価格の下落のダブルパンチにより引き続き厳しい状況が続くと思われる。この余剰トレンドは今年いっぱい続くと思われており、引き続き古紙業者には厳しい状況が続くこととなる。</p>
繊維業界	暖冬に加えて、新型コロナウイルスの発生で店頭の来客が激減した。マスクの問い合わせが毎日続いている。
ゴム製品卸売業界	<p>1月は稼働日数が少ないことにプラスして、昨年より続いている景気の冷え込みが加速しているようで、非常に低調なスタートとなった。</p> <p>輸出入は、日韓・米中の貿易摩擦及びコロナウイルスなどの影響により、自動車産業を始めとする海外生産に影響が出る事で、国内の経済環境はますます追い込まれる状況になると予想される。</p>
鮮魚小売業界	例年同様に年明けは魚が少なく静かな市場であった。後半は、若干魚は増えたが、生タラ・ナメタカレイが多く、他の魚種は極端に少なかった。売上は低調である。
青果小売業界	<p>記録破りの暖冬で、野菜全ての生育が良すぎて冬場には体験した事の無い安値で推移したが、価格安でも売上は伸びず、利益の薄い一ヶ月であった。冬場の鍋物の食材の売れ行きも最悪である。果物も有名な産地以外は激安だったが、売れ行きは良くなかった。</p> <p>消費税増税後の消費者の節約志向は食卓にも確実に浸透しつつあり、先行きが不安である。</p>
家電小売業界	年明けの家電業界では、恒例の初売りで昨年より2時間も早く並び、開店前には昨年の1.3倍になった店もあった。特にWindows7のサポート終了におけるパソコンの駆け込み需要で賑わった店舗が多かった。また、エコポイントや5%還元が6月に終了することから、一定の駆け込みが考えられ、季節商品の需要が6月に集中する可能性が高い。更にこれからの花粉シーズンを迎え、ウイルス対策に有効な

	<p>空気清浄機や除菌・脱臭機の商品戦略を強化している。</p>
石油小売業界	<p>原油相場は、米国とイランの対立に伴う中東情勢の緊迫化により、緊張感に包まれていたが、回避された事で落ち着いてきた。しかし、新型コロナウイルスの影響が、中国全土を中心に世界へ拡散されることが懸念され、更に猛威が増して行けば中国経済全体が冷え込む状態になり、石油製品の需要が減少する為、深刻な影響が生じる可能性が出てきた。よって、原油価格は下落傾向にあり、小売販売価格も小幅な値下がりが見られる。</p>
花卉小売業界	<p>当月売上については、前年同月比 102.5%とやや前年を上回った。当月は月間を通し天候が穏やかだったことから、品不足等も無く、価格面を含め安定した取引となった。尚、例年1月は寒さの影響から葬儀需要が増大する時期ではあるが、今冬の暖冬による影響で、葬儀に伴う売上については前年を下回った。</p>
商店街	<p>(仙台地区A商店街)</p> <p>労働力不足が課題となっており、消費増税の影響もある。特に高額商品の買い控えが見られる。初売りは前年並みであったが、その後悪化している。インバウンド需要の取り込みなどが重要となっている。新型コロナウイルスによる影響が見られる。</p> <p>(仙台地区B商店街)</p> <p>初売りと同時に冬物バーゲンがスタートするも、暖冬により冬物衣料を中心に売上は低迷している。</p> <p>飲食関係は、10月の消費税増税以来、客単価が低い傾向が、1月になっても続いている状況である。</p> <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>商店街の1月の商況について、引き続き暖冬の影響もあり、季節商品の消化が芳しくない。一部の商店で初売りを実施した店もあるが、商況に盛り上がりは無かった。商店街の中に存在する大型商業施設でも、退店で空きが目立って来ており、いよいよ中心商店街へのお客様の求心力低下が見て取れる。</p>
自動車整備業界	<p>持込車検台数はほぼ昨年並みで推移している。年始は雪もなく救援等のトラブルも無かった。</p> <p>新車販売は普通車(登録車) 11%、軽自動車 12.8%、全体でも 11.7%とそれぞれ4ヶ月連続で減少となった。消費税増税や相次いだ自然災害等の影響で減少している。一部で今後発売する新型車を待つユーザーがいるとの見方もあるが、想定以上に購買意欲に影響していると思われる。</p>
ソフトウェア業界	<p>キャッシュレス決済の中でもスマホ決済の普及が顕著である。スマ</p>

	<p>ホサービスの提供元によるキャリア決済、おサイフケータイ等の非接触 IC による決済、そして〇〇ペイに代表される QR コード決済が主要なサービスとして普及している。それに合わせキャッシュレス決済の先進国である中国では、年齢学歴等の個人情報やクレジットカードの支払い履歴や、資産情報・信用情報、人脈等々のデータを AI が分析し個人毎の信用力を数値化し、それがキャッシュレス決済等とリンクしているようである。これは、セキュリティが確立していないと個人情報丸裸になり、且つ、リアルタイムで世界中に知れ渡る可能性がある怖い仕組みである。一部の国内企業でも取り組んでいるようだが、日本もいずれは「信用スコア」が他人を信用するための指標になるのだろうか。</p>
警備業界	<p>施設警備業務を主たる業務としている警備会社から、悲鳴が聞こえて来る様になった。内容は、働き方改革の施行に伴う長時間労働の是正措置に対するものだ。これにより、勤務ローテーションを組む段階で残業を前提とする事が出来なくなった。警備員からは「これでは食っていけない」「もっと働きたい」と言う声上がる。長時間労働の是正は正しい議論ではある。しかしながら、大企業を対象としている規定ではないのかと考える。「食っていけない」と言った警備員は退社した。</p>
湾岸旅客業界	<p>天気予報通り、年始の天候は良好で、「令和初の初日の出」という事で、上旬は順調に推移したが、年末年始休みが長く、後半は息切れした感があった。バスツアーは、バス業界にあっても人手不足・賃金上昇と、バス料金が値上げ傾向にあるため、減少している。成人の日を含んだ3連休や土日は、概ね天候に恵まれ、まずまずの売上となった。また、前年比売上は漸減したものの、暖冬気味で前年と比較し穏やかであったことや、キャンペーン展開で旅客数は増加した。</p>
シーリング業界	<p>景況については、この年度末の完成に向けて、各物件の新築、改修工事共にピークを迎えている状況ではあるが、依然事業所間のバラつきは見られる。相変わらずの過密工程である。人員不足に関して言えば、組合所属業者同士の横の繋がりで支え合っている状況である。</p> <p>この先の見通しは、やはり事業所間のバラつきはあるが、年度跨ぎの物件が例年よりやや多いようである。不安材料としては、段階的な週休 2 日制の移行に伴う労働時間の減少で、これは収入に直結する為、適正価格の益々の交渉が重要になる。</p>
建設業界	<p>復旧復興事業も総仕上げの段階にあり、今後は手間のかかる施工効率の悪い現場が残っており、採算性が厳しい状況に陥るのではないかと考えているが、先般復興加速化会議において、被災地特例である復興係数等の施工確保対策について令和 2 年度までの継続が発表され、施工環境は確保されたところである。また、補正予算が成立したことにより、今後台風 19 号関連も含めた工事発注が予定されている。</p>

硝子業界	<p>令和2年の年が明けたが、1月度組合員の購買事業の動きが鈍い状況である。やはり、消費税10%に少なからずリフォーム関連に影響が出始めているのではないかと心配である。</p> <p>さて、ガラスメーカーの板ガラス製品に大きな変化が生じ、一般家庭からビル・公共の建物に使用されている「強化ガラス」の納期が「30日以上」かかり、割れた場合のガラス修繕費が高額になる事が危惧される。ガラスメーカーの納期短縮を求めたい。</p>
板金業界	<p>1月の景況については、暖冬による活動日数が多く、収益状況が好転した。</p>
タクシー業界	<p>実車率は若干増加し、輸送収入は大幅に増加した。</p> <p>LPG 価格が大幅に値上りした。</p>
倉庫業界	<p>前月比の売上高は微増である。品目別では、在庫量は機械類が微増であるが、他の品目は減少傾向にある。在庫量が増加しているのは、米等農産物、紙・パルプ、飲料等食料工業品であるが、他の品目は入・在庫量とも減少傾向にある。</p> <p>前年同月比の売上高は大きな変化は見られない。品目別では、入・在庫量と共に増加しているのは、農産品や紙・パルプである。在庫量が増加したのは、ゴム製品等雑工業品である。他の品目は、入・在庫量とも減少傾向にあり、保管残高は微増傾向にある。</p>
不動産業界	<p>2020年4月1日より、改正民法が施行される。賃貸借契約の個人保証については、例えば「100万円までを限度とする」などの限度額を設定しなければ効力が無い事になる。この額については、協議という事になるが、実際は難しく、家賃保証会社の利用が多くなると思われる。</p>